

## 「生命（いのち）の安全教育」実践事例

活動名	LINE の使い方を確認しよう②		
学校名	みどり支援学校		
学年	高等部（新栄分教室）1・2年	人数	29人
日時	令和6年3月12日（火）10：00～11：30		
取扱いの分類	総合的な探求の時間		
講師	特定非営利活動法人 NPO 情報セキュリティーフォーラム職員		
学習のねらい	分教室で実際に起きた SNS トラブルを踏まえ、生徒自身が加害者にも被害者にもならないために必要なことを理解する。		
内容	<p>&lt;導入&gt; 3つのテーマについて学ぶことを確認。</p> <p>&lt;展開&gt;</p> <p>①「ネット依存」…睡眠時間を削ってでもネットを見たい状態は依存である。</p> <p>②「サイバー犯罪」…わいせつ、児童買春、詐欺など様々。言われるままに裸の画像を上げたら全世界に拡散されて回収できない。</p> <p>③SNS 炎上…誹謗中傷は犯罪行為であることも。匿名ならバレないと思う人もいるが、ネット会社は個人を特定できる。一度発信した誹謗中傷は取り戻せない。</p> <p>&lt;まとめ&gt; 教員や消費生活センターへの相談の大切さ。ネット上で知り合った人とは会わないことなど。</p>		
成果	フィルタリングしなければならないことなど、生徒が自身の機器の現状を確認する必要があることに気づいた。また、困ったことがある時に相談する先を知ることができた。匿名であれば大丈夫と思っていた書き込みが特定されることを驚きをもって知ることができた。さらに、自分の情報が拡散される恐怖を実感することができた。		
課題	文字だけでのやりとりでは相手の気持ちを汲み取ることが難しい分教室生徒にとって、インターネットトラブルに係る指導は今後も積み重ねが必要。来年度は「インターネット被害未然防止講座」のうちネットトラブルを疑似体験の実施を計画する。		
性に関する指導の手引き 参考箇所	指導事例 小学校3年生（道徳科）および特別支援学校1年生【高等部(知的障がい)】（保健体育科）		